

昭和59年10月1日現在

5 調査方法

調査員を委嘱し、それぞれの地域の調査員が、調査票を配布し、配票自計、密封回収方式によって回収する。

6 調査事項

- (1) 夫婦の基本的属性
- (2) 家族のライフ・ステージに関する事項
- (3) 妻の就業歴に関する事項
- (4) 妻の就業に関する意識

7 調査機関

厚生省人口問題研究所が行い、市役所および町役場の協力を得て実施する。

8 結果の集計及び公表

集計は厚生省人口問題研究所が行い、結果は速やかに公表する。

### 日本統計学会第52回大会

日本統計学会昭和59年度（第52回）総会および研究報告会は、7月25日（水）から27日（金）までの3日間にわたり、筑波大学（茨城県新治郡桜村）において開催された。

本年度の研究報告会は8題に上る共通テーマを始め、史上最多（予定された報告数161）という盛り沢山のプログラムが編成されたが、「疾病・死亡構造の統計的解析」、「失業問題と雇用統計」、「日本の調査統計データの利用の実態とその問題点」などの共通テーマに関する研究報告のなかに、興味をひく報告が多くあった。そのなかで、われわれの参加した「疾病・死亡構造の統計的解析」における報告の主なものを挙げると次のとおりである。

死亡力の社会経済的決定要因について—昭和期（1945年～）を中心として—	大塚 友美（日本大）
日米の平均寿命と死因構造の分析	山口 喜一（人口問題研） 高橋 重郷（"）
日本・台湾・米国における死亡構造の統計的解析	階堂 武郎（筑波大）
わが国における自殺および不慮の事故死亡の月別変動に関する統計的解析	内藤 雅子（東京大） 根岸 龍雄（"）

このほかにも、例年どおり「人口統計」に関する部会が設けられたが、他部会の研究報告プログラムのなかのものをも含めて、人口に関連のある報告を列挙してみると次のとおりである。

〔人口統計〕

マイクロ・シミュレーションモデルによる世帯情報予測	岡崎 陽一（人口問題研） 伊藤 達也（"） ほか
人口増加率に対するパラメータ変化の影響	太田 邦昌
大都市圏人口の社会増加に関する分析	川崎 茂（国土庁）
人口移動圏と医療圏	大久保正一（日本大）
身分別死産性比の統計	緒方 昭（福井医大） 臼井竹次郎（ほか）

〔その他〕

センサス及び継続調査の施行頻度について	斎藤金一郎（上智大）
日本の3つの異った時期における年齢別死亡統計の比較	飯淵 康雄（琉球大） ほか

(山口喜一記)